

平成21年度 兵庫県立兵庫高等学校 学校評価表

1 学校教育目標
創立以来、培い育ててきた「質素剛健・自重自治、これを実に至誠をもってす」の精神を日常の指導に具現し、先輩の築いた榮譽ある伝統を踏まえ、21世紀に生きる有為の人材として必要な資質を育成する。

2 学校経営計画
(1) 心の教育の充実を図り、「生きる力」の育成に努める。 (2) 自主自立の精神を養い自ら学ぶ力を育てる。 (3) 進路指導の充実にも努め、進路選択能力を養う。 (4) 文武両道に励み、健康で豊かな生活を実現する態度を養う。 (5) 家庭・同窓会・地域社会との連携を深める。

3 本年度の重点目標
(1) 「質素剛健・自重自治」の具現化 (2) 文武両道を目指す (3) キャリア教育の充実 (4) マナーの向上

4 評価表						
領域	評価の観点	評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
母 寮 時	開かれた学校づくり	保護者・卒業生・地域への情報発信	HPや学年通信を通じて、学校行事の取り組みと成果、進路情報等を保護者に伝える。	・学校HPで諸行事や活動の様子を知らせる。 ・学年通信を通じて、学校行事の取り組みと成果、進路情報等を保護者に伝える。	B	新型インフルエンザによる休校中はHPの更新が進んだが、部活動では十分な更新ができなかった。学年通信が生徒の感想を載せるだけで終わらないような工夫をする必要がある。
		学校紹介の推進	オープンハイスクールにおいて視覚的な機器を用いて、学校説明をおこない、本校の特色を理解してもらう。	・パワーポイントを用いて、学校行事や部活動をわかり易く紹介する。 ・在校生へのアンケートを基に、生徒が生々の声で、学校の特徴を中学生や保護者に説明する。	B	特色選抜の学校説明会を含め、学校の姿を具体的にってもらうことができ好評であったが、あらためて校区内の中学生や保護者に本校の特色を広報する必要がある。
	教職員の資質向上	情報機器の活用と能力の向上	・教職員間の情報共有化を図るために、ファイルサーバーによって文書を共有化する。 ・職員の情報機器活用能力を向上させる。	・共有すべき情報は、ファイルサーバーに保存し必要に応じて利用できるようにする。 ・評価ソフトの見直しと開発。 ・研修会を実施し情報活用能力の向上を図る。	C	共有フォルダの利用が増え、情報の共有化が進んだが、セキュリティについては課題がある。パワーポイントなど、情報機器の活用法の研修会を定期的に開く必要がある。また評価(成績処理)ソフトの見直しと改善の取り組みを具現化していかなければならない。
	危機管理体制の整備	防災教育職員研修会の実施	・防災教育職員研修会の実施	・2月に実施する研修会を継続し、「地震防災・危機管理マニュアル」の中身の充実と職員への徹底を図る。	B	今年度は7月に研修会を実施した。次年度は2月に防災研修会を計画し、6月末か7月初めの職員会議で、時間を設けて地震防災危機管理マニュアルの徹底を図りたい。
		学校管理下の事故に対する体制の徹底	・緊急時対応マニュアルの徹底を図る。 ・「地震防災・危機管理マニュアル」の中身の充実と職員への徹底を図る。	・来校者に対する対応の仕方を取り決め、周知徹底する。 ・玄関・窓口・トイレ等の環境美化を図る。 ・窓口での迅速・親切・丁寧な対応を心掛ける	B	来校者への対応が周知徹底できていなかった。共通対応を図りたい。緊急時の対応については研修会を実施し教職員への徹底を図った。常に意識し緊急時に対応できるように、目に付く所にマニュアルを掲示しておく必要がある。
	適正な予算執行	経理事務の厳正化	・複数人によるチェック体制の強化 ・公印・公金・物品を厳正に管理 ・光熱水費等の経費削減に努める。	・複数人によるチェック体制を強化し、使用簿を整備徹底する。 ・光熱水費等の経費削減に努める。	B	トイレの省エネ電灯、水道の口径の交換、自動洗浄トイレの一部導入やデマンド監視装置によるチェック体制により経費削減に努めた。まだ削減する余地があるのでより一層の工夫が必要である。
身 寮	学習指導	自学自習の態度の育成	・個別指導の充実を図る。 ・土曜自習教室(全学年14回)を充実させる。	・自発的学習習慣を身に付けさせる。 ・個々の生徒の理解度、進路希望等に応じた授業展開を実施する。 ・三者面談などを通じた生徒・教師・保護者の緊密な連絡を心掛ける。	B	学力も志望も高い生徒への働きかけをより進めていく必要がある。土曜自習教室については、参加人数の確保など実施の仕方についての検討が必要である。
		授業・考査の充実と有効活用	定期考査・実力考査、模試を活用し、自己の学力を認識させる。	・自己の学力を認識させ、伸長させる。 ・定期考査、実力考査、模試の誤答の見直しを確実にさせる。	B	期末考査後の日程を計画的にすすめ、それぞれの学期の学習状況をふりかえり、次につなげられるような取り組みを考える機会を増やしていく必要がある。
	生徒指導(四綱領「質素・剛健・自重・自治」に基づく指導)	基本的な生活習慣の確立	生徒のモラルとマナーの向上を図る。	・登校指導を実施する。 ・講演(交通講話など)や集会を適切に取り入れて啓蒙を図る。	C	マナー教育ができていないので、日常生活マナーやあいさつなど、全職員で徹底して取り組む必要がある。
	生徒の適性に応じた個別指導の充実	第1志望合格に向けて最後まで頑張るように指導する。	・志望校をめざして最後までがんばるように指導をする。 ・様々な進路情報を、より正確に生徒や保護者に伝達する。	B	様々な取り組みを行っているが、HRや集会において、3年間を見据えた「働きかけ」の形ができ、共有できるようにしていきたい。また進路指導室の資料が有効に活用されるような改善を図る必要がある。	

部	進路指導	将来の職業研究	オープンキャンパスやインターンシップ事業に参加させ、進路への理解を深めさせる。	<ul style="list-style-type: none"> ・1学年の夏季休業中に職業調べをさせ、理解を深める。 ・キャリアサポートシステム(1学年・7月)、進路講演会(各学年1回)の積極的活用を図る。 ・神戸大学へのキャンバストライヤ(1学年・11月)を有効に利用し、生徒の職業選択意識を高める。 	B	今年度より東京みらいフロンティアツアーを実施し、大学や最先端研究施設、国際機関などを見学した。また保護者や卒業生の協力を得て進路やキャリアに関する行事を実施し、生徒の意識を向上させることができた。
	特色ある教育課程の充実	教育課程の検討	<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程の検討 ・特色選抜実施委員会を機能させ共通理解を図る 	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度に向けての教育課程の検討。 ・特色選抜実施委員会を機能させ共通理解を図る。 ・広報活動(学校説明会等)を進める。 	B	選抜方法の形はできたが、類型の内容についてはさらなる検討が必要である。またじっくりと考える余裕がなく、時間内に慌ただしく決まってしまう印象があり、共通理解がとれているという雰囲気ではなかったので改善していきたい。
課 題 教 育	保健・安全教育の充実	生徒・教職員の主体的な健康づくり	心身の健康の自己管理能力の向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・保健指導プリント・保健ジャーナル等を発行し、心身の健康の自己管理能力の向上を図る。 ・保健講演会(12学年・12月)を実施し、保健知識・実践能力の向上を図る。 ・学校医健康相談、キャンパスカウンセリングの積極的な活用を推進する。 	B	新型インフルエンザの流行により、休校中はインターネットを利用し、学校再開後はSHRを利用して健康観察を実施した。また、うがい・手洗いの励行など健康について自己管理を意識するようになった。
		生徒の事故対策指導	・事故や救急事態に対応する能力の向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・運動部生徒への安全講習会(6月)を実施する。 ・外郭団体の指導により、1年生全員と教職員を対象に、心肺蘇生法とAEDの講習会を実施する。 	B	1年生は保健の授業で、教職員は講習会を実施して心肺蘇生法とAEDの講習会を実施することができ、成果を上げた。
	人権教育の充実	人権意識を育てる	「HUMAN RIGHTS」を活用し、ふれあい育児体験や人権映画鑑賞会を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> ・「HUMAN RIGHTS」を用いたHRを年1回実施する。 ・人権映画鑑賞会を実施し、生徒に感想文を書かせる。 ・ふれあい育児体験(1年)を実施する。 	B	今年度は人権講演会を実施した。「HUMAN RIGHTS」はかなり年次が古く、使用したいという魅力に欠けてきているので、新しい教材を導入することを検討したい。
	国際理解教育の充実	自国や外国の歴史・文化の理解	<ul style="list-style-type: none"> ・インターナショナルデーを生徒主体で企画・開催する。 ・上海松江二中との友好的な交流を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・インターナショナルデーを生徒主体で企画・開催する。 ・上海松江二中との友好的な交流を推進する。 	B	インターナショナルデーでは、スリランカやアルゼンチンの人を招き、パワーポイントを使用してディスカッションをしたり、郷土料理や遊びを披露してもらった。上海松江二中を訪問団名が上海を訪問し、生徒主体で歓迎行事を企画・開催することができ、爽やかな友好的な交流をすることができた。
	環境・福祉教育の充実	学校美化・衛生意識の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・特別清掃の実施 ・通学路を中心に学校周辺の美化清掃に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・特別清掃の実施 ・実美委員による清掃点検活動の実施 ・通学路を中心に学校周辺の清掃を年間3回行う。 	B	今年度は新型インフルエンザによる休校により、ワックスがけはできず、通学路清掃の回数も減ったが、清掃点検活動は実施し、秋のクリーンアップ週間には生徒主体とタイアップしてクラスごとの評価を行ったが、あまり知られておらず宣伝活動に努めたい。
	図書室の積極的活用	図書室の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・読書会を充実させる。 ・図書を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・クラス読書会、全校読書会を充実させる。 ・各教科の推薦図書など、図書を充実させる。 	B	生徒の読書量を増やすために、魅力ある図書を充実させ、教科や学年との連携を密にして読書会の充実を図る。

5 総合評価

今年度は新型インフルエンザに振り回され、教育活動が十分に行われたとは言い難い。しかし、生徒と教職員の信頼関係は深まり、特色選抜実施に向けて学校説明会を2度も実施するなど兵庫高校が変わろうとしている姿勢を見せることができた。また学力向上や、進路保障、生徒のマナー指導、環境美化の取り組みについてはまだ課題が残っている。保護者や地域に対する広報、HPの充実、教育機器の活用など工夫を重ねていく必要がある。

6 外部評価

今年度は新型インフルエンザによる休校があったにもかかわらず適切に教育活動が行われていると評価できる。総合科学類型の設置にあたっては、学校は特色選抜に一所懸命で、一般のクラスがなおざりになるのではないかと懸念もある。また、情報の共有化をはかる方策も検討が必要である。そしてホームページの更新や評価ソフトの見直しなど、人材の問題であるならば、同窓会なども協力を得てはどうか。キャリアサポーターシステムも十分に機能しておらず、改善が必要である。

7 次年度の課題・改善策

特色選抜、複数志願による生徒を迎えることになり、これまで以上に指導する側の価値観の多様性が求められることになる。学力向上への取り組みや生徒のマナー・モラルの向上に努め、さらなる研究と実践が必要である。創立100年の歴史と伝統に安住せず、教育活動や特色を地域の人々により知ってもらうための広報活動を充実させるために、学校公開やHPの更新、パンフレットの刷新など具体的な取り組みが求められる。